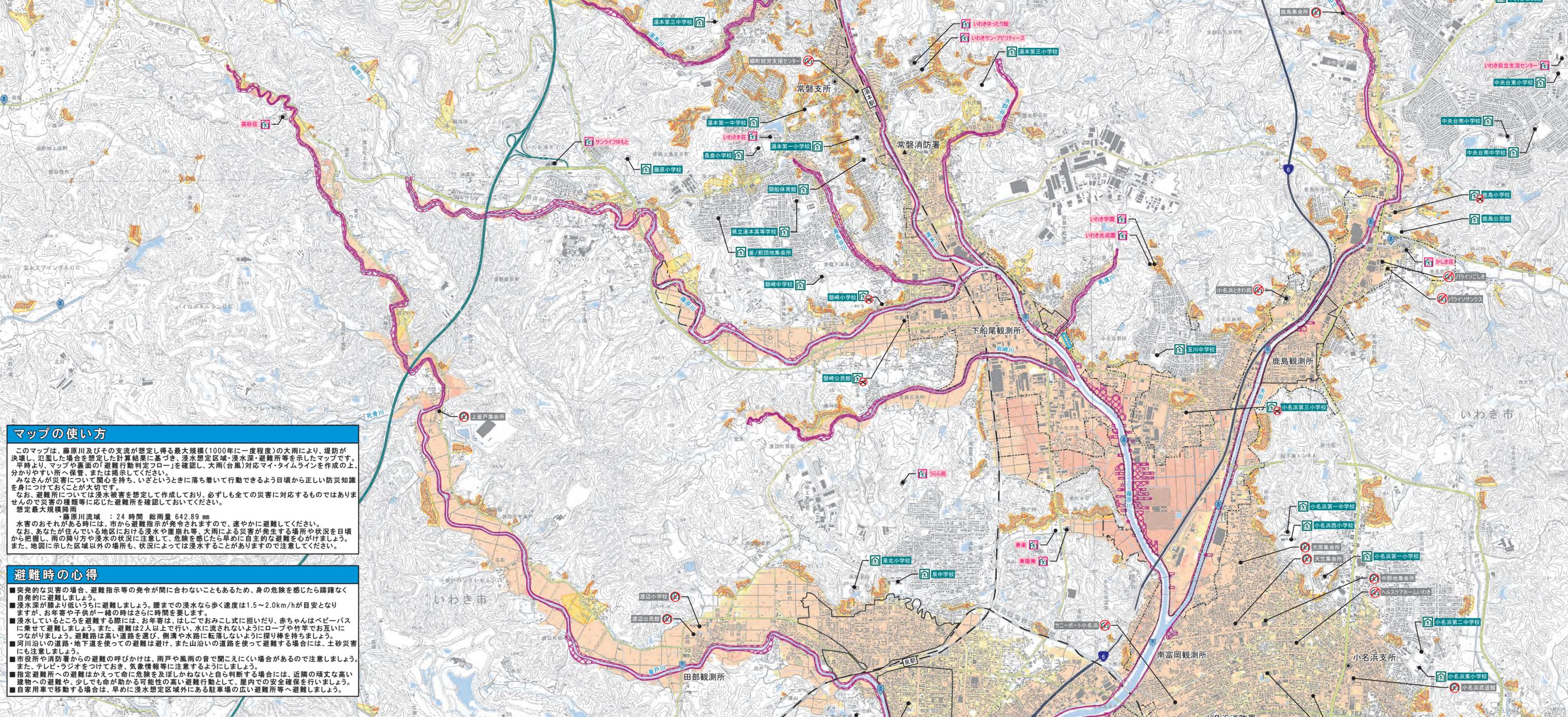


いわき市藤原川水系 こうずいひなんちず 洪水避難地図(全体図) 想定最大規模 ー河川洪水ハザードマップー



マップの使い方

このマップは、藤原川及びその支流が想定される最大規模(1000年に一度程度)の大雨により、堤防が決壊し、氾濫した場合を想定した計算結果に基づき、浸水想定区域、浸水水深、避難所を示したマップです。平時より、マップや裏面の「避難行動判断フロー」を確認し、大雨(台風)対応マイタイムラインを作成の上、分かりやすい所へ保管、または提示してください。みなさんが災害について関心を持ち、いざというときに落ち着いて行動できるよう日頃から正しい防災知識を身につけておくことが大切です。なお、避難所については浸水被害を想定して作成しており、必ずしも全ての災害に対応するものではありませんので災害の種類等に応じた避難所を確認しておいてください。

想定最大規模降雨
・藤原川流域：24時間 総雨量 642.89 mm
水害のおそれがある時には、市から避難指示が発令されますので、速やかに避難してください。なお、あなたが住んでいる地区における浸水や崖崩れ等、大雨による災害が発生する場所や状況を日頃から把握し、雨の降り方や浸水の状況に注意して、危険を感じたら早めに自主的な避難を心がけましょう。また、地図に示した区域以外の場所も、状況によっては浸水することがありますので注意してください。

避難時の心得

- 突発的な災害の場合、避難指示等の発令が間に合わないこともあるため、身の危険を感じたら躊躇なく自主的に避難しましょう。
- 浸水深が膝より低いうちに避難しましょう。腰までの浸水なら歩く速度は1.5~2.0km/hが目安となりますが、お年寄りや子供と一緒に歩くと時間はかかります。
- 浸水しているところを避難する際には、お年寄りは、はしこでおみこしに担いだり、赤ちゃんはベビーカーに乗せて避難しましょう。また、避難は大人以上で行い、水に流されないようにロープや竹等でお互いにつながりましょう。避難路は高い道路を選び、側溝や水路に陥落しないように柵や棒を持ちましょう。
- 河川沿いの道路・地下道を使っての避難は避け、また山沿いの道路を使って避難する場合には、土砂災害にも注意しましょう。
- 市役所や消防署からの避難の呼びかけは、雨戸や風雨の音で聞こえない場合がありますので注意しましょう。また、テレビ・ラジオをつけておき、気象情報等に注意するようにしましょう。
- 指定避難所への避難はかえって命に危険を及ぼしかねない自ら判断する場合には、近隣の頑丈な高い建物への避難や、少しでも命が助かる可能性の高い避難行動として、屋内での安全確保を行います。
- 自家用車で移動する場合は、早めに浸水想定区域外にある駐車場の広い避難所等へ避難しましょう。

凡例

想定される最大規模の降雨によって河川が増水し、浸水被害が発生した場合に予想される浸水の範囲を示しています。開設されている避難所については、市ホームページ、市防災メール、テレビのデータ放送等で確認してください。なお、福祉避難所は、一般避難所の要配慮者状況等を判断し必要時に開設します。

<指定避難所> 避難可能な施設 避難可能な施設 浸水時重傷の搬入が不可能な施設 使用不可 洪水のおそれがある時は避難不可な施設	<福祉避難所> (要配慮者の方が利用する避難所) 避難可能な施設 使用不可 洪水のおそれがある時は避難不可な施設	<浸水深の目安> 10.0m以上 5.0m~10.0m未満 (ビルの3階まで浸水する) 3.0m~5.0m未満 (2階が水没する) 0.5m~3.0m未満 (1階が水没する) 0.5m未満 (床下浸水) (大人の膝までつかぬ)
<公共・防災関係施設> 市役所・支所 防災関係機関・救急医療施設	<河川水位計> (令和3年7月時点のものです) 水位観測所 危機管理型水位計	<家屋倒壊等はん濫想定区域> (河岸侵食・氾濫) 河岸侵食または、氾濫により家屋が倒壊するおそれがある区域
<洪水浸水実績区域> 洪水浸水想定区域(令和元年10月大雨) 洪水浸水実績区域(平成元年8月) 洪水浸水実績区域(昭和54年10月) 洪水浸水実績区域(昭和52年9月)	<土砂災害警戒区域> (令和3年3月16日時点のものです) 土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域	

※1 想定区域であり、区域外でも浸水した箇所、区域内でも浸水していない箇所がある可能性があることから、参考図としてご活用下さい。
 ※2 土砂災害警戒区域の最新情報については、市ホームページで確認して下さい。